

1. 完全大血管転換症 100 例に対する Jatene 手術後の不整脈
2. 多脾症候群の房室ブロック。
(分担研究：不整脈の管理指針及び心術後の管理指針に関する研究)

高尾篤良*、富松ふみ子、門間和夫

要約：1. 完全大血管転換症 100 例に Jatene 手術を行い、手術後の不整脈を調べたところ、I 型 57 例中 1 例、II 型 43 例中 3 例に完全房室ブロックが見られただけで、心房内スイッチ手術に比べて不整脈は少なかった。2. 多脾症候群 50 例の心電図を経年的に平均 7 年の経過を調べた結果、54% に房室ブロックが生じ、かつ進行性である事が判明した。

見出し語：完全大血管転換症、不整脈、多脾症候群、房室ブロック

1. 完全大血管転換症 100 例に対する Jatene 手術後の不整脈

〔研究目的〕完全大血管転換症（以下 TGA）に対する Jatene 手術は、その術式から従来の根治手術より術後の不整脈が少ないと予想される。我々の施設では 1982 年 8 月より 1987 年 10 月までに、TGA に対し Jatene 手術を 100 例経験したので、これらの症例の術後の不整脈について検討した。

〔方法〕対象は Jatene 手術を施行された TGA 100 例で、I 型は 57 例、II 型は 43 例である。心電図は標準 12 誘導を随時検査し、術後 1 カ月以上持続した不整脈のみを検討した。

〔結果〕術後、不整脈が見られたのは、心室性期

外収縮の散発する II 型 2 例を除いて、I 型 1 例、II 型 4 例のみであった。I 型の 1 例は、手術時体外循環開始前より原因不明の完全房室ブロックを生じ、術直後にペースメーカーを植え込んだ症例であった。II 型の 1 例目は術直後より高度房室ブロックを生じたが、無症状のため治療なしで経過観察中であり、2 例目も直後より完全房室ブロックとなったが、イソプロテレノールの経口投与のみで経過観察中である。3 例目は、術直後より II 度房室ブロックで 2：1 ブロックとなり、心不全の増悪も見られたため、ペースメーカーの植え込みが行なわれた。4 例目は、冠動脈が Shaher 7c 型で術後洞不全症候群と思われる不整脈が見

* 東京女子医科大学付属日本心臓血圧研究所小児科 (Department of Pediatric Cardiology, The Heart Institute of Japan, Tokyo Women's Medical College)

られ、抗不整脈剤の投与を受けていたが、術後5～6カ月より正常洞調律に回復した。

〔考察〕 Jatene手術後、Ⅰ型では手術自体が原因となるような不整脈は生じなかった。Ⅱ型では4例に不整脈が見られたが、その原因としては、心室中隔欠損の閉鎖や冠動脈の走行異常等が関与していると思われる。現在、術後最長5年以上経過しているが、新しく不整脈を生じた症例はなかった。

2. 多脾症候群の房室ブロック

〔研究目的〕 多脾症候群では心房性不整脈が多く、異所性調律と各種の房室ブロックが生じる。この房室ブロックの頻度、進行性、心奇形との相関を調べる目的で次の研究を行った。

〔方法〕 過去5年間に精密検査の為に入院した多脾症候群50例の入院中と外来で記録した心電図（6、又は3誘導同時記録）を調べた。開心手術後の心電図は除外した。約20%はジゴキシン服用中の記録であるが、ジギタリス中毒と思われる例は無かった。多脾症候群の診断は、肺動脈造影上両側の気管支上を走行する肺動脈(left isomerism)によった。12例では脾臓センチにより多脾が認められた。右胸心(18)、両側上大静脈(21)、下大静脈奇(半奇) 静脈結合(31)、単心房又は心内膜床欠損(39)が合併していた(症例数)。

〔結果〕 経過中最後迄房室伝導が正常であったのは46%で、54%には房室ブロックが生じた。房室ブロックの程度は、1度34%、2度8%、3度12%であった。房室ブロックは一般に進行性で、8例では正常のP-Q間隔が1～10年の後に延長して、

1度の房室ブロックとなった。1度から2度へ、2度から3度への進行が見られた。

房室ブロックと合併心奇形との関連は明らかでなく単心房、心内膜床欠損との関連も明らかでなかった。1例は奇静脈結合以外に心奇形の無い多脾症候群であったが、1度房室ブロックを生じていた。

〔考察〕 多脾症候群の心房調律については別に発表する予定であるが、74%の症例で2～4個の異なるP波が出現し、かつ進行性に徐脈化を生じた。こうした多脾症候群の調律異常は幼児期以後に多くなり、その心内修復手術の際に人工ペースメーカー植込が必要になる。

〔結論〕 多脾症候群では過半数(54%)に進行性の房室ブロックが生じ、完全房室ブロックが12%に生じた。

欧文抄訳 (Abstract)

1. Arrhythmias in 100 patients with complete transposition following Jatene's operation.
2. Atrioventricular block in polysplenia syndrome .

Atsuyoshi Takao , Fumiko Tomimatsu and Kazuo Momma

1. Electrocardiograms in 100 patients with complete transposition of the great arteries following Jatene's operation revealed 4 cases of complete AV block, one in 57 simple transposition and 3 cases in 43 transposition with VSD.
2. Electrocardiograms of 50 patients with polysplenia syndrome revealed progressive AV block in 54 % of all .



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:1.完全大血管転換症 100 例に Jatene 手術を行い、手術後の不整脈を調べたところ、I 型 57 例中 1 例、II 型 43 例中 3 例に完全房室ブロックが見られただけで、心房内スイッチ手術に比べて不整脈は少なかった。2.多脾症候群 50 例の心電図を経年的に平均 7 年の経過を調べた結果、54%に房室ブロックが生じ、かつ進行性である事が判明した。